



ごあいさつ

「お客様視点に立って」

常務取締役
お客様サービス事業本部長 延 昌秀

東京五輪招致により2020年への新規投資の広がりや震災からの復興投資への更なる加速が望まれる中で、デフレ下の景気停滞から投資を控えてきた企業がこの先行きの需要をにらんで設備投資へ動き始めています。また、円安傾向も国内の設備投資に追い風となっています。一方で、新興国経済の動向、アメリカ・中国・ヨーロッパの経済対策成否によっては、まだまだ不透明な状況にはありますが、2014年度以降の国を挙げての成長戦略・制度（規制）改革に大きく期待しているところです。

このような状況下において、近年、社会インフラ設備・生産設備は高度に情報化され、これらの設備への電気エネルギーの供給源としての受配電設備の信頼性向上はますます重要度を増してきています。一方電気エネルギーの供給は、再生可能エネルギーの固定価格買取制度開始により、従来の発電事業者から需要家への一方向へ電気を送る電力系統から、お客様や電気事業者などが発電事業者として双方向で電力系統に繋がり需要を担う時代に様変わりしつつあります。

この中でICT（情報通信技術）を活用しエネルギー消費の最適化で低炭素社会を目指す、スマートグリッドが提唱されていますが、当社の前橋製作所においてもSPSS（Smart Power Supply Systems）と称した構内スマートグリッドの実証設備を稼働させております。このシステムでは、安定したエネルギーを安心・安全に供給すると共にお客様のより高度なニーズにも応え、経済性・環境性・運転管理支援などのソリューションを提供することによりBCP（事業継続計画）へも貢献するものです。

さて、日新電機は創業100年を経て、2017年には創立100周年を迎える歴史を有しております。この間、1970～80年代に電力機器事業に加えシステム事業へ業容を広げてきました。

社会インフラ・生産設備については、システム全体のライフサイクルを全うすることが重要な課題となっています。その為に、電気設備全般としては、運転継続性・延命化等お客様のニーズに応えることが我々の大きな使命と捉えています。そこでは、お客様設備の普通点検・精密点検、設備診断・巡回診断等による電気設備の信頼性確保および突発的なトラブルによるリスクの回避を目指し、メーカーならではのメンテナンスをご提案しています。また、永きに亘りお客様と共に培ってきた体験・実績を踏まえ、最新のエンジニアリング技術を駆使し、コンサルティングから各種ソリューション提供する等によりお客様の良きパートナーを目指していきます。

今回の技報では、特集“2013年の技術と成果”において太陽光発電システムについては各分野における納入例を御紹介するほか、上述しましたSPSSの構築状況を一般論文にて御紹介しております。

これからも、よりお客様視点に立ち、ニーズを反映した電力エネルギー利用の技術導入とともに既存設備のライフサイクルエンジニアリング事業を展開していく所存です。まだまだご満足いただけるレベルに達していないところが多々あるとは思いますが、引き続き日新電機グループへのご支援とご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。